

研究テーマ：基礎学力向上対策 ―中学校既習語彙学習のためのオンライン教材の有効利用について―

所属 高知県立中芸高等学校

氏名 森田昌吾

RG SH2

〔アクション・リサーチ〕

1 研究の背景

学校：中芸高等学校・定時制の課程（3修制あり：通信課程との併修制度）
生徒総数：4月9日現在、計39名（1年：9名・2年：9名・3年：12名・4年：9名）
対象クラス：1年（4月：計9名）：男子4名、女子5名→5月以降は男子3名、女子2名（計5名）
課題：・基礎学力未定着の問題：中学校での語彙や文法等の既習事項がきちんと身に付いていない
・自学自習の態度の欠如：家庭学習の習慣がなく、自分ひとりでは勉強の仕方がわからない
・苦手意識の克服：総じて英語への苦手意識が強く、積極的に授業に望む態度が見られない
・学習履歴の問題：中学校時の諸事情等により、系統だった学習をしていない生徒もいる

2 リサーチ・クエスチョン：「中学校での既習語彙を習得させるにはどうすればよいか」

3 予備調査

- 3.1 英語力を示すデータ：入試結果(学力検査および定時制特例募集結果)から見て、中学校時の基礎学力の定着が見られない。
3.2 事前アンケート調査・個別インタビューの結果、以下の点が確認された。
・英語学習に対する強い苦手意識の現状を再確認
・使用教科書の使い勝手、辞書引き指導、ノート作りは特に問題なし
・考查問題については、やや難易度が高い印象をもっている
・パソコンを活用した授業については、特に抵抗感や不安感はなく、ある程度期待感を持っている

4 仮説の設定

仮説1：ネットワーク・パソコンを活用し、Web上でできるだけ絞り込んだ中学校基本語彙を自学自習できるドリル問題を活用すれば、定着率は上がるのではないかと。
仮説2：中学校基本語彙の定着率が上がれば、高校レベルの教科書についての苦手意識も下がり理解度があがるのではないかと。
仮説3：高校レベルの教科書への理解度が上がれば、英語に対する学習意識、態度が向上するのではないかと。

5 計画の実践

5.1 中学校既習語彙の定着度調査

最初に、中学校での既習語彙の定着度を調査することとし、そのための語彙リストの作成を行った。現在、使われている中学校1年から3年の全教科書（計7社）で使用されている全ての英単語（計2,525語）のリスト¹を、さらに最小限の中学校基本語彙として絞り込むために全教科書（7社）で共通して使用された英単語（計414語）をリストアップし、それをオンライン教材の学習ターゲット語彙とした。
絞り込まれた学習ターゲット語彙（計414語）は、表1のように品詞別に分類後、5名の学習者全員を対象に、単語の意味を記憶しているかどうかの定着を図るため、3回に分けてペーパーによる第1回目確認テストを行い、各学習者一人一人の定着度調査を実施した。

表1 第1回目 各品詞別中学校レベル基本語彙の正答数および正答率

品詞	名詞135語		動詞97語		形容詞55語		副詞36語		前置詞31語		接続詞8語		助動詞11語		間投詞4語		代名詞34語		冠詞3語		計414語	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
生徒	38	28%	15	15%	14	25%	3	8%	2	6%	1	13%	0	0%	2	50%	3	9%	1	33%	79	19%
生徒A	54	40%	18	19%	10	18%	15	42%	7	23%	0	0%	1	9%	1	25%	4	12%	1	33%	111	27%
生徒B	42	31%	17	18%	10	18%	3	8%	4	13%	2	25%	1	9%	1	25%	6	18%	1	33%	87	21%
生徒C	8	6%	0	0%	0	0%	1	3%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	12	3%
生徒D	93	69%	55	57%	29	53%	11	31%	9	29%	3	38%	3	27%	3	75%	10	29%	1	33%	217	52%
平均	47	35%	21	22%	13	23%	7	18%	5	15%	1	15%	1	9%	1	35%	5	15%	1	27%	101	24%

調査の結果、学習者全体として平均すると、学習ターゲット語彙（計414語）中、約4分の1程度（101語；約24%）の定着度しか観察されず、中学校での既習語彙が定着していないという事実を裏付けることが確認された。

5.2 オンライン教材の作成

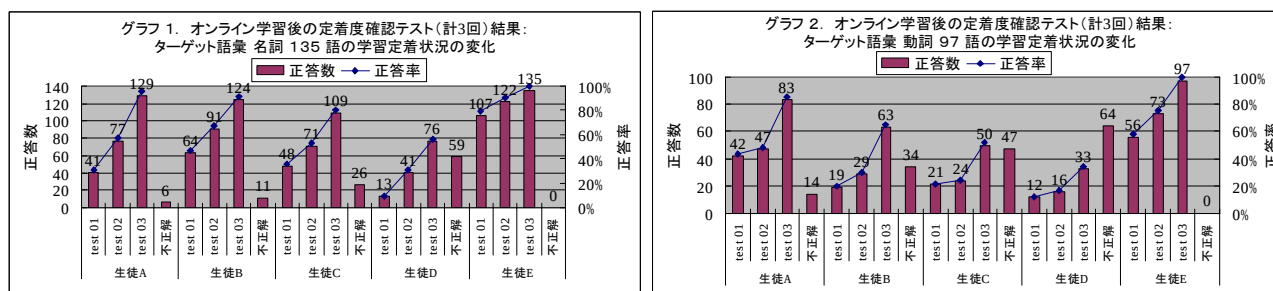
- ・学習ターゲット語彙の再限定：授業の時間的な制約から当面は、名詞135語および動詞97語に限定
- ・使用ソフトウェア：できるだけ学習者の興味を引くためにインタラクティブ性の高い学習用コンテンツを作成するためのツールとして、Hot Potatoes version 6²を使用
- ・問題の種類：今回は、JMatch（マッチング問題）とJCross（クロスワードパズル問題）のみを作成

5.3 自学自習用ウェブサイト³の構築とデータの収集・分析（注：パイロット運用開始9月以降）

- ・ウェブサイトの工夫：CGIプログラム²を利用し、その学習成績結果と履歴をその都度メールにて収集
- ・普通教室とPC教室での授業の組合せ実施：オンライン学習後にペーパーテスト形式での定着度確認テストの実施（定期考査時に実施）

6 実践の結果

3回の定着度確認テストの結果によれば、下のグラフ1及びグラフ2が示すように、程度の差はあるものの、各学習者ともに回を重ねるごとに正答率は向上し、オンラインドリル教材学習による対象語彙の定着率の向上が確認された。なお、3回目の定着度確認テストでの学習者全体平均定着（正答）率は、名詞が当初の35%から85%に、動詞が当初の22%から67%にそれぞれ上昇した。



7 結果の検証：結果と学習者へのフィードバック

結果としては上述の対象語彙定着率データの上昇が示すように、ある程度期待を満たすものとなった。そして、このことは仮説1を十分支持することになると思われる。

仮説2については、本研究がまだ初期段階で期間的にも実質3ヶ月半程度という短い期間での調査であり、現時点ではオンライン教材として選択されたターゲット語彙、計414語の内、名詞135語および動詞97語に限定された語彙でしかないという点からも、オンライン学習による基本語彙の定着率向上が、日常的に使用している高等学校教科書内容の理解度にどれほどの影響をあたえているのかを明確に測定することは難しいと考えざるを得ない。したがって、今後さらに長期的にオンライン学習を継続させ、すべてのターゲット語彙の学習が終わった時点で、学習者への教科書理解度との相関を測るための何らかの調査を実施しなければならないと思われる。

仮説3についてであるが、研究の途中段階ではあるものの、学習者の英語学習に対する意識の変容があるのかどうかを調査するため、学習者へのフィードバックとして各学習者個別のオンライン学習履歴と確認テストの結果を、自分でできるだけ客観的に認識しやすいようグラフ化したものを示し、率直な感想やコメントを得た。その結果、総じて述べれば、自分なりにオンライン学習に時間を費やし、それぞれの語彙定着率の向上にある程度の達成感と満足感を得て、英語学習に対しても少なからず肯定的な意識ができてきたという意見も見られ、今後に期待が持てるのではないかと考えられる。

8 成果と今後の課題

本研究は、多様な学習履歴を背景にもつ学習者の基礎学力不足という教育課題に対する一対策試案として、オンライン教材の開発と活用を試みたものであるが、現時点では限られた短期間での途中経過の研究報告であるため、十分なデータ収集ができず、教育効果の有無についての十分な検証がなされたものとは言えない。しかしながら、学習者の英語学習に対する消極的な意識から少なからず積極的な意識への変容が確認されたという点では、さらに今後研究を継続していくのに十分な価値を見出したのではないかとと思われる。

また、現在、ネットワークのブロードバンド化とモバイル化がさらに拡充し、高度情報ネットワーク社会への急速な発展が進む中、教育の情報化への対応の一環としての英語教育におけるオンライン学習コンテンツの開発と有効活用を模索していくという点においても教育的意義があるのではないかとと思われる。

今後の課題として、今回のような単純な基礎語彙のドリル学習だけでなく、音声・映像情報等のマルチメディアを組み込んだリーディング・ライティング・リスニング活動や、メール・チャット・掲示板等を用いたコミュニケーション活動に発展させることができるようなプラットフォームとしてのウェブサイト構築⁴の検討も必要であると考えられる。

－ Notes －

1. 全教科書（7社）で使用された全ての英単語（計 2,525 語）のデータの資料提供は開隆堂出版株式会社のウェブサイト（URL=<http://www.kairyudo.co.jp/>）にて、会員登録の上、データ tango_excel.xls（Excel 形式）のダウンロードが可能である。
2. Hot Potatoes version 6 は日本語への対応もしており、Hot Potatoes Home Page (URL= <http://web.uvic.ca/hrd/hotpot/>) よりダウンロード可能である。なお、Hot Potatoes version 6 で作成した練習問題が利用可能な CGI プログラムは formmail.cgi である。
3. 平成 16 年 12 月 22 現在、NetLanlab (URL= <http://www15.ocn.ne.jp/~nblanlab/>) にて運用中である。
4. Moodle (URL=<http://moodle.org/>)、Xoops (URL=<http://www.xoops.org/>) 等が e - ラーニング向けの語学学習に応用が可能である。